

# 馬産地ライター村本浩平の 2024 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 4 | 10.1[火] ▶ 11.7[木] 開催分

10.2  
[水]

マクフィ賞

【サンライズカップ(H1)】

マクフィは2007年産まれ、英国産馬。父Dubawi、母Dhelaal(母の父Green Desert)。現役時はGI英2000ギニー、GIジャックルマロワ賞など6戦4勝。祖父は僅か1世代しか産駒を残せなかったDubai Millenniumで、その中でも最良の後継種牡馬となったDubawiを父に持つ。3歳時の英2000ギニーでGI初制覇。同じ年のジャックルマロワ賞では祖父、父に続く親仔3代での同一GI制覇という快挙を成し遂げた。2011年からイギリスでスタッドインし、2017年シーズンからは新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養。世界各国でGI馬を送り出しており、日本でも芝・ダートの双方で重賞馬が誕生している。

10.3  
[木]

サンダースノー賞

【ネクストスター門別(H1)】

サンダースノーは2014年産まれ、愛産馬。父Helmet、母Eastern Joy(母の父Dubai Destination)。現役時はGIドバイワールドカップ(2回)、GIジャンプラ賞など24戦8勝。2歳時のクリテリウムアンテルナショナルで初GI制覇。それ以降は毎年のようにGIを勝利していき、3歳時にはジャンプラ賞、4歳時と5歳時のドバイワールドカップを連覇している。世界各国を転戦しながら、芝、ダートといった条件だけでなく、距離も不問のオールマイティな活躍を残した。2020年シーズンから日高町・ダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスで繋養。産駒はダートを中心に堅実な勝ち上がりを見せている。

10.10  
[木]

ウエストオーバー賞

【グランシャリオクイーンズ(H3)】

新種牡馬

ウエストオーバーは2019年産まれ、英国産馬。父Frankel、母Mirabilis(母の父Lear Fan)。現役時はGI愛ダービー、GIシングル大賞など13戦4勝。3歳時のGⅢサンダウクラシックトライアルSで重賞初勝利をあげると、1番人気で出走した愛ダービーでGI初制覇を果たす。4歳時はGIドバイシーマクラシックとGIコロネーションCでいずれも2着に入ると、シングル大賞でGI2勝目をあげる。その後はGIKジョージ六世&QエリザベスSに続き、GI凱旋門賞でも2着の成績を残している。2024年シーズンから新冠・優駿スタリオンステーションで繋養。本年度は82頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

10.24  
[木]

ニューイヤーズデイ賞

【ブロッサムカップ(H2)】

ニューイヤーズデイは2011年産まれ、米産馬。父Street Cry、母Justwhistledixie(母の父Dixie Union)。現役時はGIBCジュヴェナイルなど3戦2勝。2歳時のBCジュヴェナイルでGIウイナーとなるも、その後の調教で骨折が判明し引退。2014年シーズンからアメリカでスタッドインする。2年目産駒のMaximum Securityが、デビューからの連勝でGIフロリダダービーを優勝。その活躍を受ける形で、2020年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養。日本で誕生したエートラックスが、2024年のJpnⅡ兵庫ChSを制しただけでなく、同じ年のJpnⅢ北海道スプリントCでも2着となっている。

11.4  
[月・振]

パイロ賞

【JBC2歳優駿(JpnⅢ)】

パイロは2005年産まれ、米産馬。父Pulpit、母Wild Vision(母の父Wild Again)。現役時はGIフォアゴースなど17戦5勝。4歳時にフォアゴースを制した後、2010年から日高町・ダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスで繋養。導入当初からPulpitの後継種牡馬として注目を集め、初年度産駒から重賞での活躍馬を送り出していく。2021年にはミュチャーリーがJBCクラシックを制して、産駒初となるGI級競走の勝ち馬となると、2022年と2023年の帝王賞をメイショウハリオが連覇している。ダートサイアランキングでは8年連続でトップ5入りを果たしており、産駒はセリでも高い評価を受けている。

11.6  
[水]

ビッグアーサー賞

【道営スプリント(H1)】

ビッグアーサーは2011年産まれ、浦河町・バンブー牧場の生産馬。父クラバクシンオー、母シャボナ(母の父Kingmambo)。現役時はGI高松宮記念など15戦8勝。3歳の4月の未勝利戦から、休養を挟みながらの5連勝でオープン入り。その後は重賞でも好走を続けていき、5歳時の高松宮記念ではコースレコードを樹立しての初GI制覇。続くGⅢセントウルSも勝利して重賞2勝目をあげている。2018年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養。初年度産駒のトウシンマカオがスプリント重賞で4勝をあげるなど、産駒は父を彷彿とさせるかのように、芝スプリント戦での活躍馬が目立っている。

11.7  
[木]

タイトルホルダー賞

【道営記念(H1)】

新種牡馬

タイトルホルダーは2018年産まれ、新ひだか町・岡田スタッドの生産馬。父ドゥラメンテ、母メーヴェ(母の父Motivator)。現役時はGI菊花賞、GI天皇賞(春)、GI宝塚記念など19戦7勝。3歳時のGⅡ弥生賞で重賞初勝利。続くGI皐月賞でも2着に入着する。その年の菊花賞では果敢にレースの主導権を奪っていくと、そのまま逃げ切ってGIウイナーの仲間入りを果たす。4歳初戦となるGⅡ日経賞を勝利して迎えた、天皇賞(春)を逃げ切り勝ち。続く宝塚記念もレースレコードでGI3勝目をあげる。2024年シーズンから新ひだか町・レックススタッドで繋養。その年には159頭の繁殖牝馬を集めてみせた。

今シーズンは特別競走2レースも  
「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別15回 ・ミスチヴィアスアレックス賞
- 門別15回 ・アニマルキングダム賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

